

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	旧約聖書における'al-p#nêの誤訳について
Auther(s)	阿部, 節子
Citation	ニダバ , 13 : 7 - 13
Issue Date	1984-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00047149
Right	
Relation	



旧約聖書における 'al-pēnê の誤訳について

阿 部 節 子

旧約聖書の中にはしばしば現れる古典ヘブライ語表現 'al-pēnê は、特に場所や方向を表わす副詞句として用いられている場合が29箇所¹ある。これらの箇所の中、'al-pēnê を「…の東にある」と訳出しているのは、日本聖書協会訳において12箇所²、新改訳において10箇所³、また、バルバロ訳においては格段に少なく、ただ1箇所⁴にすぎない。このような翻訳のばらつきは、'al-pēnê の意味が多様なため、「…の前に」「…に面して」「…に沿って」「…の方へ」等々、コンテキストに合わせて柔軟に訳語を当てることができるからである。

しかしながら、'al-pēnê を「…の東にある」と訳出している場合について、ある特定の地名に触れている箇所を調べてみると、そこに記述されている内容と実際の地理的状況とが、必ずしも合致していないことに気付く。

一方、辞書によっては、'al-pēnê の項に「…の東にある」とはっきり説明しているものもあり、ますます混乱を大きくしている。しかし、名詞 pāneh は「顔」「表面」を表わし、本来「東」という意味を含まない。'al-pēnê を「…の東にある」と訳出したのは、おそらく qedem (前, 東)の意味から pāneh の意味を類推した結果であろうと思われる、明らかに誤訳である。'al-pēnê を「…の東にある」と訳出しても事実と矛盾しないいくつかの例⁵は、たまたまコンテキストがそうになっていただけで、次の挙げたような箇所では、「…の東にある」と解釈すると問題が生じる。

- | | | |
|----------|-------|-----------------------|
| 1. Gen | 49:30 | マムレの東にあるマクペラ(日本聖書協会訳) |
| 2. " | 50:13 | 〃 (〃) |
| 3. Josh | 13:25 | ラバの東のアロエル(日本聖書協会訳) |
| 4. 1 Sam | 26: 1 | エシモンの東にあるハキラの丘(新改訳) |
| 5. " | 26: 3 | 〃 (〃) |

マムレ (mamrē) は、エルサレムの南にあるヘブロン北方の地である。マクペラ (makpēlah) は「洞穴」を意味し、死者を埋葬する墳墓として用いられた場所を指していると思われる。この「マクペラの洞穴」が一体どこに存在していたのか明らかではないが、伝承によれば、現在ヘブロン町の

南西部の一角を占めている建物が、アラビア語で Ḥaram el-Khalīl (アラブハムの聖所)と呼ばれ、墳墓マクペラの洞穴を囲んで建てられたものとされている。とすれば、マクペラはマムレの東に当るのではなく、むしろその逆方向、マムレの南西に位置していなければならない。

また、ラバ(rabbah)は、ヨルダン河東、ヤボク川の上流に建てられたアンモン人の首都で、今日ヨルダンの首都になっているアンマンのことである。アロエル('arō'er)は、ラバテ・アンモンの北西にあるアルジャーンを指すと思われるので、その位置はラバの東ではなく、北方または少々西寄りの北に当る。

エシモン(hayisimōn)は、日本聖書協会訳、およびバルバロ訳では特定の地名ではなく、「荒野」、しかも定冠詞 ha の付いた「特定の荒野」として訳されているが、地図の上にエシモンという地名を見つけることができないことから、この解釈の方が正しいと思われる。おそらくこの「荒野」とは、死海の西岸に沿って南北に延びるユダヤの荒野を指しているものと推測される。ハキラの丘(gib'at hahakilah)は、ヨクネアムおよびジフの東にあり、その西側は荒野というより、むしろ集落の多い地方であった。1 Sam 23:19 もハキラの丘について言及しているが、ここでは、「エシモンの南、ハキラの丘」(新改訳)とあり、「エシモン」がユダの荒野を意味することが確認できる。と同時に、1 Sam 26:1 および 26:3 においても「エシモンの南にあるハキラの丘」とならなければならないことがわかる。

いま、'al-pēnē が「…の東にある」と訳されていない個所についても、「…の東にある」と訳することができるかどうか、そう訳しても地理的な実情と矛盾しないかどうか調べてみると、次の3例において問題が生じる。

1. Gen 23:19 マムレに面するマクペラ(日本聖書協会訳、新改訳、バルバロ訳)
2. Josh 15:8 西の方、ヒンノムの谷に沿って(日本聖書協会訳)
西のほうヒノムの谷を見おろす(新改訳)
西の方、ヒンノムの谷に面した(バルバロ訳)
3. 18:14 西の方では、ベテホロンの南にある山から南に曲り(日本聖書協会訳)
西側で、ベテ・ホロンに面する山から南のほうに回り(新改訳)
西南の方角に向って曲り、南では、ベト・ホロンに面した山から折れ(バルバロ訳)

Gen 23:19 は、Gen 49:30、および 50:13 にある記述と全く同じである。それ故、ここで 'al-pēnē を「…の東にある」とすると、同様の、地理的に不可解な問題が生じる。即ち、マクペラはマムレの

南西方向にあった埋葬所と考えられており、マレムの東に位置していたとはとうてい解釈し難いのである。

Josh 15:8 に述べられているヒノム(またはヒノム)の谷(gê hinnōm)は、エルサレムの南側にあり、ヨッパ門の西方に当る広い平坦な谷に始まり、この門の近くで南に曲がって下り、シオンの丘の下方から東に転じ、キデロン谷と合している。この個所では、明らかに「西の方」とことわっているため、'al-pēnê を「…の東にある」と訳出することは不可能である。当然のことながら、どの翻訳も「ヒノムの谷の東にある」と訳出することを避けている。

ベテ・ホロン(bêt hōrōn)は、ユダのシェフェラーにあった二つの町の名で、互いに3 km程隔たり、180mの落差があるため「上・下」の形容詞を付けて区別された。この辺りは、沿岸平原から中央山岳地帯に通じる重要な通路を押さえており、その地形的条件からパレスチナの戦史に重要な役割を果たした場所である。しかし、Josh 18:14における問題は、特定の場所を位置づけることによって生ずる矛盾ではなく、上に挙げた例に見るように、副詞句'al-pēnê、および文全体の訳し方の多様性にある。その理由の一つは、ヘブライ語の副詞(または副詞句)が、現代語に比べて、被修飾語との結びつきがルーズであること、また、語順についてもかなり融通性があることにもよる。ここでは、ヘブライ語テキストの'āšer 'al-pēnê bêt-hōrōn negbāhにおけるnegbāhの解釈のし方が、翻訳をする上で一つの難所になっていると考えられる。即ち、negbāhはnegeb(南)のlocativeであり、'āšer以下の形容詞節において、'al-pēnêと結んで副詞句を構成する。それ故、この個所は「南方でベテ・ホロンに面した」と解すべきであり、日本聖書協会訳およびバルバロ訳が原典の意味にもっとも近いと言えよう。したがって、Josh 15:8と同様に、ここでも'al-pēnêを「…の東にある」と訳すことはできないし、事実、そのように訳している翻訳は一つもない。

以上のことから、副詞句'al-pēnêに「…の東にある」という意味を読みとることは難しいことがわかる。前置詞'alは英語のonに相当し、pānêは複数名詞pānīmのconstruct形である。それ故、'al-pēnêは本来「…の前に」「…に面して」「…に沿って」の意味を表わすのであって、そのように訳出するならば、全てのケースにあてはまる。勿論、「…の東にある」と訳することができる個所もあるが、それは、あくまでコンテキストに応じてそう意識することが可能な場合に限られる。

'al-pēnêを「…の東にある」と訳出するようになった原因や時期については、確かな資料もなく定かではないが、少なくともタルグム(アラム語訳)や七十人訳(ギリシア語訳)にはその例がなく、また、ウルガタ訳(ラテン語訳)においても見あたらない。日本語訳について言えば、ウルガタ訳をベースにした、一般に「古い」翻訳と考えられているバルバロ訳にはその例が1個所にすぎないのに対して、比較的新しい日本聖書協会訳や新改訳においては、かなり多くの例が認められることは前述した通りである。同様の現象は英語訳の場合にも見られる。即ち、日本語訳の場合に倣って、'al-pēnêが特定の地名と共に用いられている29の個所について調べてみると、「to the east of」と訳してある例が、The Revised Standard Versionでは18、Moffatでは18、また、The New English

Bible では19個所認められる。これに対して、17世紀の翻訳になる The King James Version においては、その例を全く見ないのである。したがって、'al-pēnē を「to the east of」と訳出する傾向は、20世紀以降の翻訳に由来していることがわかる。

辞書についてみると、'al-pēnē に「…の東にある」の意味を付しているのは、少なくとも近代に入ってから W. Gesenius が先駆者ではないかと思われる。彼は、前置詞 'al と名詞 pānīm の表わす意味がそれぞれ多様であることを指摘し、それ故、'al-pēnē の意味もコンテキストによって様々であると説明しているが、特に地理的な意味として「eastward」⁶を載せている。同様の記述が Gesenius の辞書を踏襲する辞書にも認められる。⁷ただし、BDB には、「in front of = east of」⁸とした上で、「but not always」とことわっている。

一方、辞書以外にも、J. Reindl のように 'al-pēnē の語源や意味の分布状況を詳細に調べ、その結果「östlich von」⁹と訳出している例がある。さらに、J. Morgenstern¹⁰によれば、'al-pēnē は実際には 'al-pēnē haššemeš (to the face of the sun) の短縮形で、おそらくは古代人の太陽神信仰から生まれた表現であろうと言う。このように、'al-pēnē の源が古代社会の太陽神崇拜に遡ることができ、したがって、「…の東にある」という意味は必然的にそこから派生したとする考え方は確かに興味深くはあるが、目下のところ資料不足で憶測の域を出ない。その上、もし 'al-pēnē がそれ程歴史の古い、人々の生活に密着した表現であるのなら、何故初期の翻訳が「…の東にある」と訳出しなかったのであろうか？ 先にも述べたように、'al-pēnē を「…の東にある」と訳した例は、むしろ新しい翻訳に目立って多いのである。

そこで、もっと一般的な考え方は、qedem (東)との類推による意味の誤解である。ヘブライ語において、「東」「西」「南」「北」は、通常 qedem, 'ahôr, yāmîn, s'mō'l で表わされるが、それぞれの意味を調べてみると、これらの方角が、太陽の昇る方を基準にして定められていることがよくわかる。このような考え方は、自然界と密接な関係に生きていた古代の人々に特有の考え方であって、英語の orientation (方向づける)という言葉の由来をみても明かであろう。即ち、qedem は「前方」¹¹「東」¹²を意味し、また、時間に関しては「以前」「昔」の意味に用いられる。'ahôr は、「後方」¹³「西」¹⁴の意味で、太陽の昇る方向に向って、それと正反対の方角を表わす。太陽の昇る方向に向って立つと、当然のことながら、右側は南である。それ故、「右」¹⁵を意味する yāmîn は「南」¹⁶を指す単語でもある。同様に、s'mō'l は「左」¹⁷を表わすと同時に、「北」¹⁸の意味にも用いられる。このように、qedem が「前方」、したがって「東方」を表わすことから、同じく「…の前に」を意味する 'al-pēnē も「…の東にある」と訳出する傾向が生まれたのではないかと思われる。既に述べたように、pānīm は本来「顔」を表わす名詞であって、特に「東」という意味を含まないので、A が B に「面している」と解するにとどめておくべきであろう。

'al-pēnē の訳語についてさらに推論をおしすすめるならば、この表現は「A は B の東にある」とか、あるいは「A は B に向かい合っている」など、方角や正確な地理的状況を言うのではなく、「A

はBに近い」程度のかなり大まかに状況を描写するための表現であろうと思われる。何故なら、この表現が用いられている場合には、たいていAをよく知られているBで説明しようとする意図を読みとることができるからである。例えば、

Gen	25:18	エジプトに近いシュル
Num	21:11	日の上の方、モアブに近い荒野
Josh	13: 3	エジプトに近いシホル
〃	17: 7	シケムの近くのミクメタテ
〃	18:14	ベテ・ホロンに近い山
〃	19:11	ヨクネアムの近くにある川
Judg	16: 3	ヘブロンに近い山の頂
1 Kgs	11: 7	エルサレムの近くにある山
〃	17: 3	ヨルダン川の近くにあるケリテ川
2 Kgs	23:13	エルサレムの近くにある破壊の山
Zech	14: 4	エルサレムの近くにあるオリーブ山

即ち、これらの例において、あまり人に知られていない地名、または全く無名の場所、あるいは、故意に名を伏せて暗示した川や荒野が、それらの近くにあるよく知られた地名によって描写され、説明されている。

以上のことから、次のように結論することができよう。即ち、‘al-pēnê は、コンテキストによって様々に訳出することのできる表現であるが、その本来の意味は「…に面する」である。ただし、この「…に面する」は、隣接したり、あるいは真正面に向かい合っていることを表わすのではなく、より広汎な接し方、つまり、ただ近くにあることを示している。それ故、‘al-pēnê は「…に面して」「…に向い合って」と訳出するよりも、「…の近くにある」のような訳語を当てるのがふさわしいと思われる。このように考えてはじめて、先に触れた Josh 18:14 の翻訳の難しさも解消するはずである。

注

1. Gen 18:16; 19:28; 23:19; 5:9, 18; 49:30; 50:13; Num 21:11; 23:28; 33:7; Deut 32:49; 34:1; Josh 13:3, 25; 15:8; 17:7; 18:14, 16; 19:11; Judg 16:3; 1 Sam 15:7; 26:1, 3; 2 Sam 2:24; 1Kgs 11:7; 17:3, 5; 2 Kgs 23:13; Zech 14:4.
2. Gen 25:18; 49:30; 50:13; Josh 13:3; 13:25; 17:7; 19:11; 1 Sam 15:7; 1Kgs 11:7; 17:3, 5; 2 Kgs 23:13.
3. Josh 13:3; 19:11; 1 Sam 15:7; 26:1, 3; 1Kgs 11:7; 17:3, 5; 2 Kgs 23:13; Zech 14:4.
4. Josh 13:3.

5. Gen 25:18; Josh 13:3; 17:7; 19:11; 1 Sam 15:7; 1 Kgs 11:7; 17:3, 5; 2 Kgs 23:13; Zech 14:4.
6. Willam Gesenius, Thesaurus Philologicus Criticus Linguae Hebraeae et Chaldaeae Veteris Testamenti (Leipzig, 1829), translated by S.P. Tregelles, Gesenius' Hebrew and Chaldee Lexicon to the Old Testament (Grand Rapids, 1949), p. 682.
7. 例えば, Edward Robinson, A Hebrew and English Lexicon of the Old Testament, 20th ed. (New York, 1854), F. Brown, S.R. Driver and C.A. Briggs, Hebrew and English Lexicon of the Old Testament, 7th ed. (Oxford, 1968); Frants Buhl, Gesenius' Hebräisches und Aramäisches Handwörterbuch über das Alte Testament (Berlin, 1962).
8. 前掲書, p. 818.
9. Joseph Reindl, Das Angesicht Gottes im Sprachgebrauch des Alten Testaments (Leipzig, 1970), p. 43.
10. Julian Morgenstern, "Biblical Theophanies," Zeitschrift für Assyriologie, 25 (1911), pp. 174-175.
11. 用例として, Deut 33:27; Judg 8:10; Job 23:8; Ps 139:5; Is 9:11, etc.
12. Gen 10:30; 29:1; Judg 6:3; 7:12; 8:10; 16:33; 1 Kgs 5:10; Job 1:3; Is 11:14; Jer 49:28; Ezek 25:4, etc.
13. Gen 49:17; 1 Ch 19:10; 2 Sam 1:22; Job 23:8; Is 50:5, etc.
14. Deut 11:24; 34:2; Josh 2:20; Job 18:29; Is 9:11, etc.
15. Ex 15:6, 12; 2 Sam 16:6; 1 Kgs 7:39; Is 41:10; 62:8, etc.
16. 1 Sam 23:19; 2 Sam 24:5; 2 Kgs 23:13; Ps 89:13; Ezek 16:46, etc.
17. Gen 13:9; 24:49; Ex 14:22; 2 Kgs 23:8; 1 Ch 6:29; Ezek 16:46, etc.
18. Gen 14:15; Josh 19:27; Ezek 16:46, etc.

参 考 文 献

- Aharoni, Yohanan. The Land of the Bible. Philadelphia, 1967.
- 馬場嘉市編「新聖書大辞典」キリスト教新聞社, 1971.
- Brown, F., S.R. Driver, and C.A. Briggs. Hebrew and English Lexicon of the Old Testament. 7th ed. Oxford, 1968.
- Buhl, Frants. Gesenius' Hebräisches und Aramäisches über das Alte Testament. Berlin, 1962.
- Morgenstern, Julian. "Biblical Theophanies," Zeitschrift für Assyriologie, 25(1911) pp.174-175.
- Moscatti, Sabatino. Ancient Semitic Civilizations. New York, 1960.
- Noth, Martin. Das Buch Joshua. Tübingen, 1953.
- Reidl, Joseph. Das Angesicht Gottes im Sprachgebrauch des Alten Testaments. Leipzig, 1970.

Robinson, Edward. A Hebrew and English Lexicon of the Old Testament 20th ed. New York, 1854.

Tregelles, S. P. Gesenius' Hebrew and Chaldee Lexicon to the Old Testament. Grand Rapids, 1949.